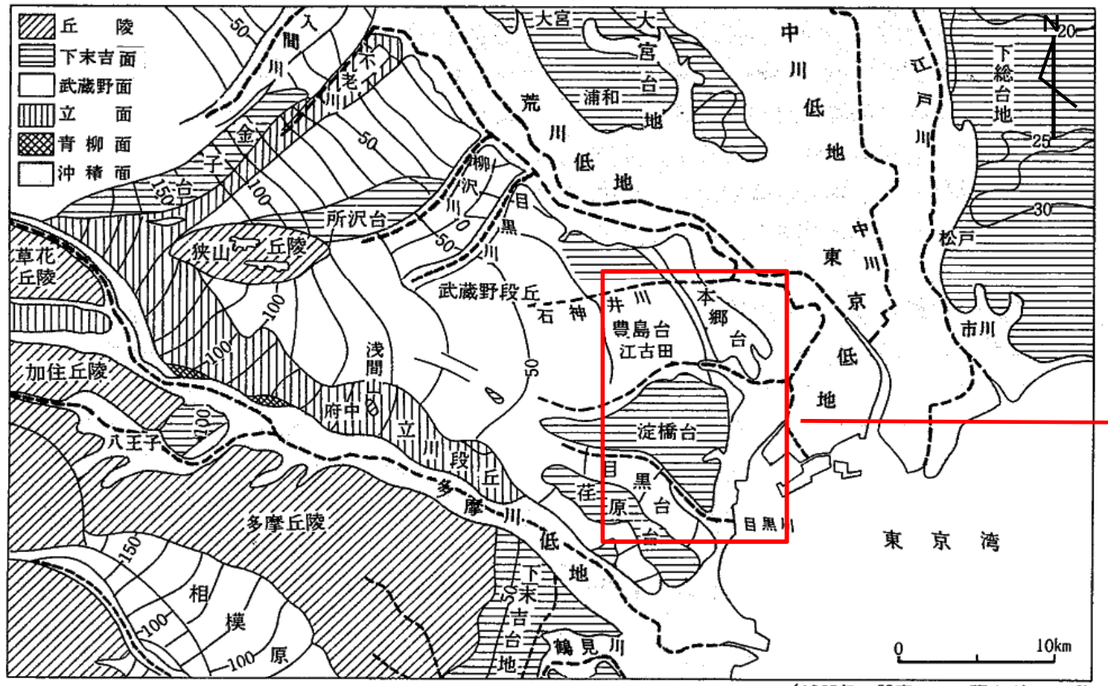
地形・地質概説(1)



（1965年、関東ローム研究グループ）

武蔵野台地周辺の地形分類図

（出典:東京百科事典　東京学芸大学地理学会30周年記念出版専門委員会編集　国土地理協会(1982)）

地形概説

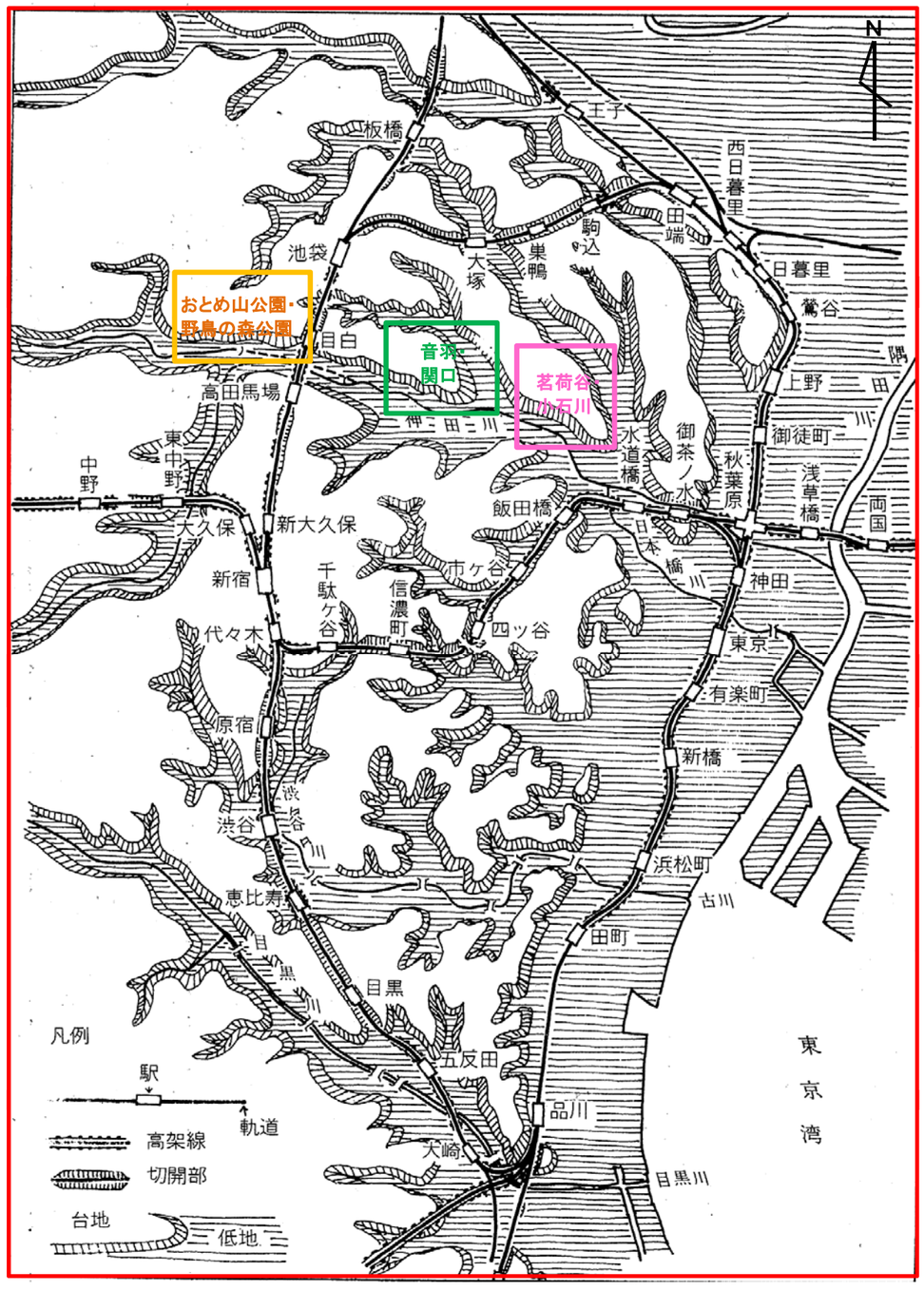
東京都の東部は、台地(段丘）と低地によって形成されている。台地は武蔵野台地と呼ばれ、古多摩川により形成された扇状地性の武蔵野段丘と呼ばれる地形面が西から東へ広がっている。神田川の北側の台地は、本郷台や豊島台と呼ばれ、この武蔵野段丘面に位置する。

武蔵野段丘面より一段高い地形面が下末吉段丘（淀橋台、荏原台など）と呼ばれる地形面で、神田川の南側から目黒川の間に広がる台地はこの地形面に位置する。この下末吉段丘面は、多くの谷によって侵食され開析谷が形成されている。武蔵野段丘の谷は、概ね急で開析谷の数も少ないの比べ、それより古い地質時代に形成された下末吉段丘は開析谷の数も多く、かつ谷が浅くて緩やかである特徴を有している。

神田川の北側斜面(左岸）、特に文京区小日向から新宿区下落合に掛けて連なる段丘崖は急傾斜の斜面となっている。反対に、神田川南側(右岸）の緩斜面となっている。このような神田川の両岸の段丘崖の下には、湧水箇所が多く見られ、小さな池と緑のある環境になっている。しかし、近年は湧水量が激減しており、多くの湧水は枯渇し、池の水もポンプで循環しているケースも多い。また、台地と低地の斜面には坂も多く、特に文京区には菊坂、神楽坂、播磨坂、吹上坂、目白坂、鷺坂、胸突坂など名のある坂が多く認められる。

下末吉段丘は今から約13～11万年前に関東一円が海（古東京湾）となり、その後、陸化したもので、武蔵野段丘は、今から10～3万年前、下末吉段丘を侵食して古多摩川が流れ、武蔵野礫層が堆積して形成されたもので、いくつかの台地面を作り、豊島台、本郷台、目黒台などと呼ばれている。各段丘の表層は関東ローム（武蔵野ローム･立川ローム）に覆われている。

参考文献：都市の水文環境　新井正、新藤静夫、市川新、吉越昭久　共著　共立出版（1987）
：新版　東京都　地学のガイド　貝塚爽平監修　東京都地学のガイド編集委員会編
コロナ社(1997)



武蔵野台地東部　山手線周辺の地形模式図(台地と谷のようす)

（出典:　歩いてみよう東京　五百沢智也著　岩波書店(1994年）

JAGH
発行:公益社団法人　日本地下水学会
市民コミュニケーション委員会(通称:とりきち委員会）　http://homepage3.nifty.com/jagh_torikichi/index.htm